


手動式ポンプ

取扱説明書

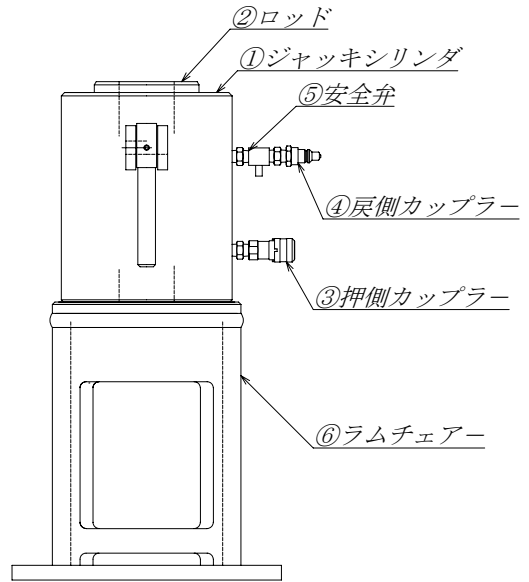
 大瀧ジャッキ株式会社

# 油圧ジャッキ取扱説明書

## 1. 各部の名称

### (1) ジャッキ部

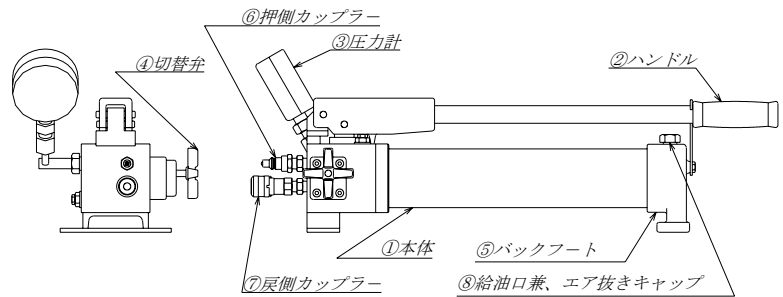
- ① ジャッキ本体
- ② ピストンロッド
- ③ 押し側カップラー
- ④ 戻し側カップラー  
(単動式はガスチャージ金具)
- ⑤ 安全弁
- ⑥ ラムチェア



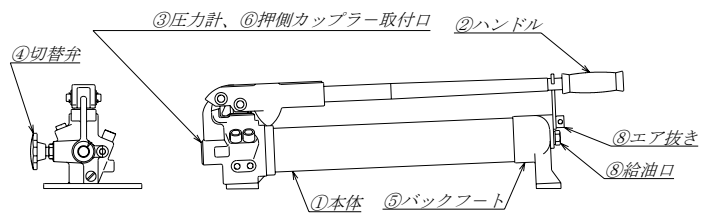
油圧ジャッキ及び付属品名称

### (2) ハンドポンプ

- ① 本体
- ② ハンドル
- ③ 圧力計
- ④ 切替弁
- ⑤ バックフート
- ⑥ 押し側カップラー
- ⑦ 戻し側カップラー
- ⑧ 給油口兼、エア抜きキャップ



複動式ハンドポンプ



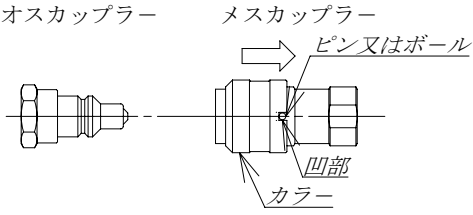
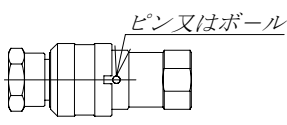
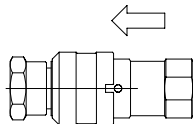
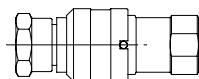
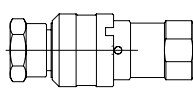
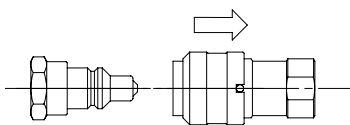
単動式ハンドポンプ

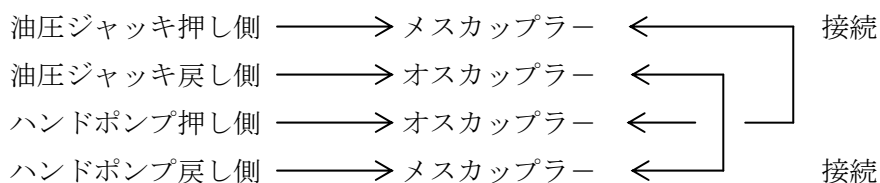
2. カップラー脱着方法及び油圧ホース接続方法

油圧ホースの両端は、オスカップラーとメスカップラーが取り付けられています。

油圧ジャッキからハンドポンプまで油圧ホースで配管します。

【カップラー脱着方法】

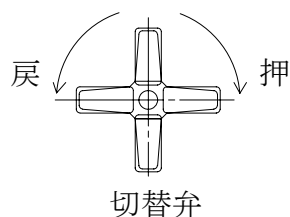
取付方法	取り外し方法
<p>1. メスカップラーのピンと凹部を合わせてカラーを引く。</p> <p>オスカップラー      メスカップラー</p> 	<p>1. メスカップラーのピンと凹部を合わせる。</p> 
<p>2. カラーを引きながらオスカップラーにしっかり押し込みながらカラーから手を離す。</p> 	<p>2. 油圧ホースを引きながらメスカップラーを引き抜く。</p> 
<p>3. ピンと凹部が合わぬようにカラーを90°回転させる。</p>  <p>最後に油圧ホースを引っ張り、抜けなければ接続完了です。</p> <p>油圧ポンプの残圧と油圧ホース内の内圧で図の位置まで押し込めない場合は、残圧、内圧を抜くか又はさらに強く押し込んで下さい。この際カップラーをあまり強く叩かないで下さい。使用不能になるか、油漏れの原因となります。</p> <p>接続後は必ず作動テストを行って下さい。</p>	<p>3. カラーを引きながら引き抜く。</p>  <p>油圧ホースを引き抜く際には、油圧ジャッキのストロークを全て戻し、押し戻し両方の圧力を全て抜いて下さい。圧力が残っている状態でホースを抜くと、再接続の時に入らなくなることがあります。</p>



### 3. ジャッキアップ方法

〔操作手順〕

- ① ジャッキの設置状況を確認する。
- ① 給油口兼、エア抜きキャップを緩める。
- ② 切替弁を「押」側方向に閉め込む。
- ③ ハンドルを上下に動かす。
- ④ 油圧ジャッキのロッドが伸長する。



#### 【注意】

- ・ 給油口兼、エア抜きキャップを緩めずに使用すると吸い込み不良を起こします。必ず緩めて下さい。
- ・ ジャッキが正しく設置されていないと、ジャッキが転倒事があります。必ず正しく設置して下さい。
- ・ カップラーの接続は確実に行って下さい。カップラーの接続不良により、油圧ジャッキを破損させるおそれがあります。
- ・ 安全弁から油が出るか、品物を受ける前に圧力があがったときは、カップラーの接続不良が考えられます。安全弁はいじらずに再度カップラーの接続を確認して下さい。
- ・ 複数のジャッキに、1台のハンドポンプを転用すると油が不足する事があります。
- ・ 使用の際には周囲を確認してから作業を行って下さい。手足を挟んだり、その他、危険が生じます。

### 4. ジャッキダウン方法

〔操作手順〕

- ① 切替弁を「押」から、徐々に「戻」の方向に緩めます。
- ② ロッドが徐々にダウンします。

#### 【注意】

- ・ ジャッキは必ず正しく設置して下さい。ジャッキが転倒おそれがあります。
- ・ ジャッキダウンの速度は、切替弁の開放量で決まります。油圧ジャッキに荷重がかかっている状態で切替弁を多量に開放すると、ロッドが急激に戻りますので注意して下さい。また同じ開放量でも、圧力が高いときほどジャッキダウンの速度は早くなります。
- ・ 給油口兼、エア抜きキャップを必ず緩めて下さい。閉めた状態でダウンすると、タンク内にはい圧が発生しハンドポンプが破裂し怪我をする事があります。
- ・ 複数のジャッキに、1台のハンドポンプを転用すると油が給油口兼、エア抜きキャップから溢れる事があります。溢れた油は直ちに拭き取って下さい。転倒の原因となります。
- ・ 使用の際には周囲を確認してから作業を行って下さい。手足を挟んだり、その他、危険が生じるおそれがあります。

## 5. ロッドを戻す

### 〔操作手順〕

- ①圧力計の針が「0」である事を確認して下さい。
- ②切替弁を「戻」方向に回転させます。(回転が止まるまで)
- ③ハンドルを上下に動かします。
- ④油圧ジャッキのロッドが収縮します。(ストロークエンドで圧力が上がります。)

### 【注意】

- ロッドを収縮する時は必ず圧力計の針が「0」になっている事を確認してから作業を行って下さい。
- ジャッキダウンしてからロッドを戻すときは、ジャッキの戻し側の部屋には油が入っていません。従って、「戻」にしてハンドルを上下に動かしてもロッドはすぐに収縮しません。手応えがある所からロッドが収縮します。
- ストロークエンドになる前に圧力があがったときは、ロッドの変形または、ボルト等でジャッキを固定している事が考えられます。再度ジャッキ周囲の点検をして安全を確認してから作業して下さい。

## ジャッキ使用中の注意事項（手動ポンプ）

・危険	ジャッキは斜めに使用しないで下さい。 斜めに使用しますとジャッキが転倒し、大変危険です。
・危険	油圧ホースのカップラーの接続は別紙「カップラーの脱着方法」に従って行って下さい。 接続不良はジャッキを破損させることがあります。
・危険	油圧ホースをキンクさせたり、上から物を落下させないで下さい。 油圧ホースが破裂しジャッキが急降下することがあります。
・危険	手動ポンプのエア抜き弁は必ず緩めてから御使用下さい。 締めたまま使用しますと油槽タンクの破裂（ジャッキダウン時）、吸い込み不良（ジャッキアップ時）の原因となります。
・危険	切替弁の操作は静かに行ってください。 急激な操作ではジャッキが急降下することがあります。
・注意	油圧ホースカップラー接続の際、カップラーに付着しているゴミ、ほこり等を取り除いてから接続して下さい。 ゴミ、ほこり等が付着したまま接続しますと、油漏れ又は作動不良の原因になります。
・注意	カップラーを落としたり、圧抜きのために強く叩かないで下さい。 カップラーの破損、油漏れの原因となります。
・注意	外部に漏れた作動油は、直ちに除去して下さい。 足元が滑り、転倒することがあります。
・注意	ジャッキ伸長中に、手を触れないで下さい。 ジャッキに手を挟まれけがをする事があります。
・注意	その他、使用中に異常が起こった場合には、直ちに作業を止めて、安全を確認してから、作業を再開して下さい。場合によっては、大変危険です。

## ジャッキ使用中の注意事項（電動ポンプ）

・危険	ジャッキは斜めに使用しないで下さい。 斜めに使用しますとジャッキが転倒し、大変危険です。
・危険	油圧ホースのカップラーの接続は別紙「カップラーの脱着方法」に従って行って下さい。 接続不良はジャッキを破損させることがあります。
・危険	油圧ホースをキンクさせたり、上から物を落下させないで下さい。 油圧ホースが破裂しジャッキが急降下することがあります。
・危険	電動ポンプの「取扱説明書」を良く読んでから使用して下さい。 操作方法を間違えますとジャッキ破損させるばかりか、大変危険です。
・危険	ジャッキアップ中又はジャッキで品物を支持している最中にレバーを戻しに入れないで下さい。 ジャッキストロークが急激に収縮して大変危険です。
・危険	電源の接続端子・ケーブルの接続部は濡れた手で触らないで下さい。 感電することがあります。
・注意	油圧ホースカップラー接続の際、カップラーに付着しているゴミ、ほこり等を取り除いてから接続して下さい。 ゴミ、ほこり等が付着したまま接続しますと、油漏れ又は作動不良の原因になります。
・注意	圧抜き弁、カットバルブは全開にして使用しないで下さい。 油漏れ、バルブ破損の原因となります。
・注意	電源は必ず200Vを使用して下さい。周波数は50Hz～60Hzで使用して下さい。 油圧モーターの破損の原因になります。
・注意	使用前にモーターの回転方向を確認して下さい。また、その際にポンプのレバーが中立になっていることを確認して下さい。 レバーが倒れている状態だとジャッキストロークが伸びて大変危険です。
・注意	ジャッキアップ時に圧抜き弁を開けないで下さい。 ジャッキアップが出来ません。
・注意	カップラーを落としたり、圧抜きのために強く叩かないで下さい。 カップラーの破損、油漏れの原因となります。
・注意	外部に漏れた作動油は、直ちに取り除いて下さい。 足元が滑り、転倒することがあります。
・注意	ジャッキ伸長中に、手を触れないで下さい。 ジャッキに手を挟まれけがをすることがあります。
・注意	作業終了後は、必ず全てのバルブを締めて下さい。また電源を必ず止めて下さい。
・注意	その他、使用中に異常が起こった場合には、直ちに作業を止めて、安全を確認してから、作業を再開して下さい。場合によっては、大変危険です。